

放射線災害対策

放射線災害が起きたら

放射線災害とは、放射線事故で放射性物質が漏れ、被害が生じることをいいます。放射性物質とは放射線を出す物質のことで、放射線を出す能力を放射能といいます。放射線災害の程度は人間が感じ取ることができないため、放射性物質に関する基本的な知識と正しい対応法を身につけることが重要です。

正確な情報を入手する

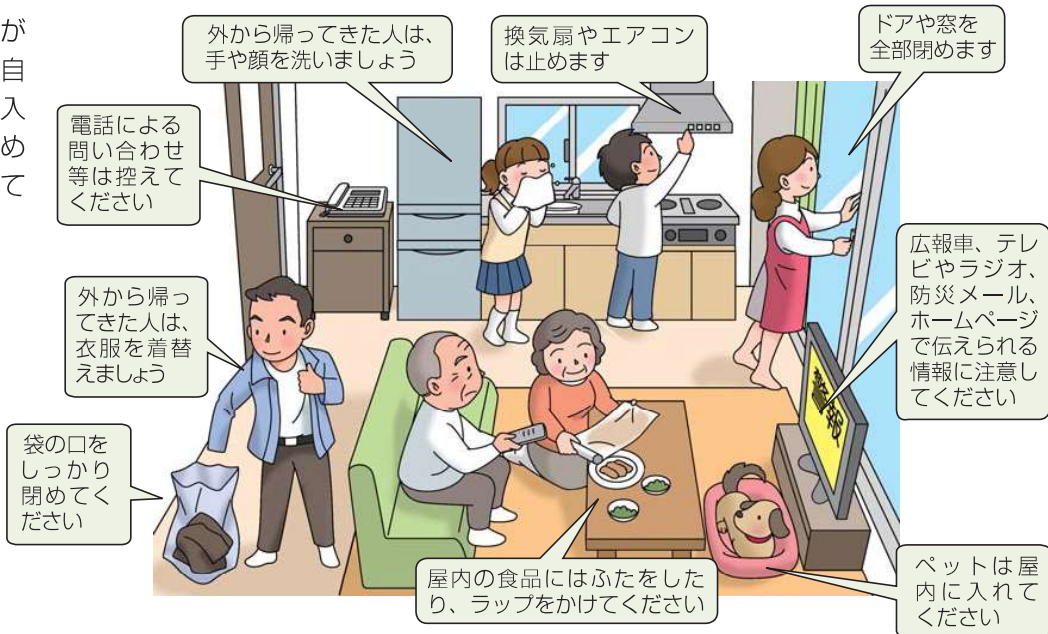
放射線災害が発生すると、さまざまな情報が錯綜します。誤報や不確かな情報が紛れ込むこともあります。うわさやデマに注意し、公共機関が報じる情報や指示を待ち、あせらずに行動しましょう。

被ばくをさけるには

大分県内には、放射性物質を取り扱う事業所がありますので輸送中の漏れいや火災等が考えられます。その対策としては屋内退避が効果的です。必要に応じて国や県、大分市が屋内退避などの指示を行いますので落ち着いて行動しましょう。

屋内退避で取るべき行動

屋内退避の指示が出たら、速やかに自宅などの建物内に入り、ドアや窓を閉めて次の対策を取ってください。



✓ 防災チェックポイント

外部被ばく、内部被ばくから身を守る

外部被ばくから身を守るには…

- 距離による防護
できるだけ遠くに離れる
- 遮蔽による防護
コンクリートなどの建物の中に入り、放射線をさえぎる
- 時間による防護
放射線を受ける時間を短くする

内部被ばくから身を守るには…

- 吸引防止
マスクやハンカチで口をふさぐ
- 摂取防止
汚染された水や食べ物をとらない



※大分県は、大分市内の2カ所（衛生環境研究センター、佐賀関小学校）にモニタリングポストを設置し、空間放射線量率の常時監視を行っています。各地点の空間放射線量率は文部科学省のホームページからリアルタイムに閲覧することができます。